

## 修 士 論 文 の 和 文 要 旨

大学院電気通信学研究科 博士前期課程 人間コミュニケーション学専攻		
氏 名	神田 奈美	学籍番号 0436006
論文題目	CSCL におけるメタ認知としての司会者	
<p>要 旨</p> <p>伝統的な教育現場では、教授内容の理解が学習者の間で共通になるように、協調学習というグループによる助け合い教え合いの場が取入れられてきた。CSCL(Computer Supported Collaborative Learning) は、コンピュータを用いて協調学習を実現する学習形態である。ところが、教室のように学習者が同一の場にいることが要求されないため、学習者間の協調を活発にし、効果的にゴールに到達できる方法が要求される。すなわち、CSCL では、最終的な学習ゴールに至るまでの相互作用自体の質が重視される。</p> <p>これまでに、学習者に役割を与えることで行動をコントロールし、学習者間に効果的な相互作用を発生させる研究が行われ、その有効性が報告されている。しかし、この役割についての研究で、その効果が見られないものもあることが分かっている。役割に求められる活動が曖昧だとその役割は達成されにくい。特にCSCL はコンピュータを通して協調作業が行われるため、人間の活動を構造化した上で支援内容を決定する必要がある。</p> <p>そこで、本研究では、役割に関するこれまでの研究に求められるモデルがないことに着目し、最も重要な役割である司会者の理想的なモデルを提案する。司会者の活動は、その内容から協調学習場に対するメタ認知的役割だと考えられる。そこで、司会者のモデルを作成するにあたって、メタ認知のモデルを利用する。さらに、提案した司会者モデルにおけるモニタリングという活動はネットワークを介した学習では困難だと考え、これを支援するシステムを提案する。このシステムは協調学習中にグループ内の各学習者が申告した理解状態を司会者に提示するというものである。</p> <p>提案したモニタリング支援を用いたシステムを使って実験を行った。実験結果より、司会者に提示した理解状況モニタリング画面によって他の学習者に対するモニタリングが促進されたこと、モニタリングが促進されることで効果的なコントロールが行われたこと、司会者の適切なコントロールによって協調学習における相互作用の質が上がったこと、協調学習での発言が促進されたこと、提案した司会者モデルが効果的な司会者を示していること、理解状態の申告によってメタ認知の促進は見られなかったことがわかった。</p> <p>以上のことから、本研究が提案する司会者モデルとモニタリングの促進の手法はCSCL に有効であると考えられる。</p>		